

自動車ライドのシェアリング  
ビジネスであるワーバーや部屋  
を民泊としてシェアリングする  
サイトを提供するエアビーアン  
ドビーなどが成長ビジネスとし  
て世界的に注目されている。確  
少性はさらに高まるはずであ

# 日本の 未来を 考える

学習院大教授 伊藤元重



かに自動車や部屋などの資源を  
多くの人で共用する経済的な利  
益は大きい。情報システムのマ  
ッチングでそれを可能にしたビ  
ジネスモデルは素晴らしい。  
ただシェアリングによって有

効活用するという意味では、人  
材やスキルの方が、自動車や部  
屋よりもはるかに希少で重要な  
資源であるはずだ。少子高齢化  
による労働力減少で、人材の希  
少性はさらに高まるはずであ  
る。自動車や部屋と似ていて、  
人材のシェアリングも時間とい  
う要素が重要となる。さらに重  
要なことは、人々が持っている  
スキルや経験は多様であり、そ  
れを求める企業の方のニーズも

## 労働力もシェアする時代

をマッチングするクラウドソー  
シングは長期採用につながるリ  
クルーティングから、短期で人  
材を活用するスポットコンサル  
の世界まで、多様な形で広がる  
ことが期待される。働く側でも  
特定の企業に縛られるのではな  
く、いろいろな企業でその実力  
を發揮することが可能となる。  
育児などで労働時間を限定し  
たい女性、退職した後もスキル  
を生かしたいシニア、特殊な技  
能や知識を持ち、できるだけ広  
く生かしたい専門家など労働の

世界のことをあまり知らない人  
材だけに頼るようでは、企業の  
活力もそがれることになる。  
技術革新の世界でも、オーブ  
ンイノベーションということが  
盛んに言われるようになってき  
た。自前の技術だけではイノベ  
ーションの流れに乗ることはで  
きない。できるだけ他の企業や  
研究機関の能力を活用するよう  
な、開放的で連携的な技術開発  
が求められる。同じように、労  
働やスキルでも、オープンソー  
シング（開放的な資源活用）が  
求められる。残念ながら、これ  
は終身雇用・年功賃金という長  
期雇用で労働者を囲い込んでき  
た旧来の雇用制度とは真逆の方  
向を指向するものだ。

日本の雇用制度が全て悪いと  
いうわけではないが、少なくとも  
も自前主義とも呼ばれる閉鎖性  
はオープンソーシングと相反す  
るものである。政府も働き方改  
革の中で、兼業の重要性を指摘  
している。兼業を積極的に擁護  
することで、外の世界の経験を  
積んだ、より能力の高い人材が  
増えていくことになる。クラウ  
ドソーシングが進んでいけば、  
多様な働き方を可能にする労働  
市場に変わっていく。そしてそ  
れで希少な労働のより有効な活  
用につながるれば、日本経済の活  
性化にもつながるはずだ。

（いとう もとしげ）

\*この記事・写真は産経新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。